

# 津波・高潮

気象庁では、津波による災害の発生が予想される場合に、地震が発生してから約3分後を目処に津波警報(大津波、津波)または津波注意報を発表します。

## ● 津波警報・注意報の種類

種類	発表基準	発表される津波の高さ		想定されるべき行動と取るべき行動
		数値での発表 (津波の高さ予想の区分)	巨大地震の 場合の発表	
大津波 警報	予想される津波の高さが高い ところで3mを超える場合。	10m超 (10m < 予想高さ)	巨大	陸域に津波が襲い浸水するおそれがあるため、沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難する。警報が解除されるまで安全な場所から離れない。
		10m (5m < 予想高さ ≤ 10m)		
		5m (3m < 予想高さ ≤ 5m)		
津波警報	予想される津波の高さが高い ところで1mを超え、3m以下の 場合。	3m (1m < 予想高さ ≤ 3m)	高い	
津波 注意報	予想される津波の高さが高い ところで0.2m以上、1m以下の 場合であって、津波による災害 のおそれがある場合。	1m (0.2m ≤ 予想高さ ≤ 1m)	(表記しない)	陸域では避難の必要はない。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れる。海水浴や磯釣りは危険なので行わない。注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしない。

※ 大津波警報は特別警報に位置付けられています。

### 高い場所へ速やかに避難する

より高い場所へ、より海から遠い場所へ速やかに避難しましょう。

### なるべく徒歩で避難する

車では渋滞や危険を招く可能性があるため、なるべく徒歩で避難しましょう。

### 正しい情報を入手する

防災行政無線やテレビ、ラジオなどから正しい情報を入手しましょう。

### 河川や海岸には近づかない

地震の発生や、警報・注意報が発表された場合、海岸や河川は危険ですので、釣りや海水浴を行っている方は、速やかに海岸から離れ、高い場所へ避難しましょう。

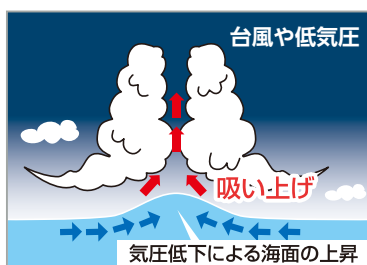
### 避難指示に従う

避難指示が発令されたらただちに指示に従い、安全で高い場所に速やかに避難しましょう。



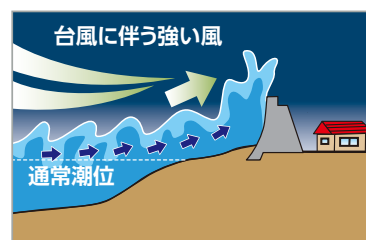
## ● 高潮が発生する仕組み

高潮とは、台風や発達した低気圧の接近により、海面が異常に高くなる現象です。高潮が発生するとその高い潮位と波浪・強風により、海水が堤防を越えるようになり、背後地が浸水する可能性が高くなります。また、高潮が発生している海域に流れ込む河川があれば、高い潮位や波浪により河川の流れが阻害されます。そのため、川沿いで「はん濫」が発生し、海岸から離れた内陸部にまで被害を及ぼすこともあります。



### 吸い上げ効果

台風や発達した低気圧の中心が接近すると、中心付近の気圧が低下し、海面が吸い上げられて上昇します。気圧が1hPa低下すると海面は1cm上昇します。例えば、950hPaの台風が接近すると、1000hPaだった時より50cm海面が上昇します。



### 吹き寄せ効果

台風による強い風が沖から海岸に向かって長時間吹き続けると、海水が海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が異常に上昇します。吹き寄せ効果は風速や海岸の状況により大きく異なり、V字型の湾の奥ほど高くなります。

## ● 高潮って、どのような事に気をつけたらいいの??

高潮発生時は、安全な高台へ避難することが原則ですが、外に出ない方が安全な場合もあります。大事なものは、その場所の想定される浸水の深さなどを事前に調べ、どのような避難行動をとるか決めておくことです。(あらかじめ避難先を決めておく等) 平屋建てやマンションの1階に住んでいる方は、浸水の高さが2mを超えると避難は必須でしょう。生命に危険が及ぶかどうかは、この高潮の高さによって大きく異なります。

高潮浸水想定は14ページから確認ができます。あなたの自宅は高潮の浸水想定区域に入っていますか? 浸水深は何mですか? 命を守る最善の行動は事前の備えから始まっています。

### 高潮注意報・警報の基準となる潮位

- 高潮注意報 → 潮位1.4m
- 高潮警報 → 潮位2.1m
- 高潮特別警報 → 数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により高潮となると予想される場合

### 高潮に関する情報入手

- 気象庁 気象警報・注意報  
→ <https://www.jma.go.jp/jp/warn/>
- 大分地方気象台  
→ <https://www.jma-net.go.jp/oita/>